

令和7年度版 総合計画の進行管理及び課題管理シート（令和6年度の振り返りと令和8年度の取組検討）

施策No	121	
施策名	中心市街地及び地域市街地の活性化	施策の目的● 商業を中心とした魅力ある中心市街地（佐野駅周辺地区）を創出します。 ● 生活機能の確保された地域市街地（田沼駅及び葛生駅周辺地区）を創出します。
関係課	産業政策課、文化推進課、観光推進課、都市計画課、都市整備課、道路河川課、財産活用課	

1. 進行管理  
（1）指標の実績・考察と目標年度（令和7年度）の目標値達成見込み

			実績基準値		実績値					見込値	目標値	最終年度（R7）の 目標値達成見込	R 6 年度の実績説明・考察 及びR7目標値達成見込判断の理由
	指標	単位	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R7				
a	中心市街地のメイン通り沿いの店舗数	軒	319	389	296	277	256	250	335	④現在の想定では目標達成が困難	空き店舗活用補助を活用した新規店舗が年間8件ほどが出店しているが、事業者の高齢化等による廃業数が増えている。		
b	地域市街地のメイン通り沿いの店舗数（田沼）	軒	86		78	77	72	80	86	④現在の想定では目標達成が困難	空き店舗活用補助を活用した新規店舗が1件出店したが、事業者の高齢化等による廃業数が増えている。		
c	地域市街地のメイン通り沿いの店舗数（葛生）	軒	50		49	49	48	49	50	④現在の想定では目標達成が困難	空き店舗活用補助を活用した新規店舗が1件出店したが、事業者の高齢化等による廃業数が増えている。		
d													

（2）構成する事務事業の昨年度（令和6年度）の取組結果 ※効果が上がった、下がったの判定は、事業効果を説明する指標のR 5との比較となります。

施策関連区分A（実施計画事業）							事業費（単位：千円）			効果説明
【効果が上がった事業】							R4	R5	R6	
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6	
5	まちなか回遊促進事業	スタンブラーの応募者	人	0	0	20	0	0	764	店舗の周知を図り、にぎわいのある商業地域となっている。
		参加店舗数	店	0	0	21				
6	まちなか活性化支援事業	中心市街地空き店舗活用件数	件	67	78	86	4,231	9,957	10,602	創業希望者等がまちなかでの出店を選択し、空き店舗等が活用された。また、出店者に対してまちなかに関係するイベント情報を提供し、連携を呼びかけることで、店舗への来店者増加とまちなか活性化を結び付けた。
		市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192				
		地域市街地空き店舗活用件数	件	2	3	5				
8	まちなか婚活推進事業	婚活によりまちなか来訪を促した数	人	30	38	55	792	1,000	990	2回のイベントともにトラブル等なく、開催できた。 参加者に配布したクーポンにより、まちなか店舗等への誘客が促進できた。
23	駅南公園西土地区画整理事業	土地の使用収益率（累計）	%	33.4	38.6	39.9	72,277	55,816	84,608	物件移転の遅れが影響し、土地の使用収益率及び道路工事進捗率は微増にとどまった。
		道路工事進捗率（累計）	%	5.1	8.0	13.1				
24	市道佐野 5 7 号線道路改良事業	整備率（事業費ベース）	%	38.5	60.1	100	10,593	21,203	29,368	・整備が完了した区間において、歩行者、自転車利用者の安全が確保され、また、通過車両の円滑な通行を図れた。

【効果が下がった事業】							事業費（単位：千円）				効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6		

②施策関連区分B（実施計画事業以外）							事業費（単位：千円）				効果説明
【効果が上がった事業】							R4	R5	R6		
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6		
3	ためまふるさと祭り支援事業	ためまふるさと祭り来場者数	人	18,000	15,000	17,000	1,220	1,700	1,700	多少の増減はあるものの、来場者はある程度一定している。	本市の中心市街地活性化に関する知識を得ることができ、随時その知識を活かして関係する事務事業を進めることができた。
13	栃木県まちなか元気会議参画事業	市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192	50	50	50	おおむね事件や事故等なく施設を利用してもらうことができ、各階の事業の実施に貢献できた。	
14	まちなか活性化ビル管理運営事業	施設管理上の瑕疵による事件事故の発生件数	件	0	0	0	18,606	15,368	16,711	地絡停電事故が発生したが、けが人やトラブル等も発生せず、早急に復旧することができた。	電光掲示板や館内でのポスター掲示等を通して、情報発信を行うことができた。
		まちなか活性化ビル利用者	人	6,189	6,860	7,806					
18	佐野市民大茶会開催支援事業	市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者数	人	166,659	182,153	191,670	350	350	350	来場者数を増やし、市街地での回遊を促すとともに、天明鋳物を使用した茶会を開催することで、天明鋳物への関心を高める。	入館者数は、コロナ前（平成28～30年度）は4000人を超えていたが、令和2年度に1,293人と減少し、その後は徐々に増えている。まちの駅・赤ちゃんの駅での入館者数は令和2年度の186人より増えたが、令和3～5年度は横這いの状況である。
19	市民ギャラリー管理運営事業	市街地活性化施設・公共交通機関年間利用者	人	166,659	182,153	191,670	49	42	45	来館者を増やすことで、施設への関心を高める。	
21	人間国宝田村耕一陶芸館運営事業	入館者数（陶芸館総数）	回	1,540	1,788	2,029	707	914	827		・自由通路におけるトラブル件数が減少した。
		まち・赤ちゃんの駅入館者数	人	260	323	365					
22	佐野駅自由通路施設管理事業	施設のトラブル件数	件	2	1	0	6,712	6,658	17,379		・税外収入の確保 ・市民広場駐車場を終日利用可とすることで中心市街地の活性化に寄与
25	市民広場駐車場活用促進事業	使用料	円		0	600,308			3,760		
		利用台数	台		196,743	199,468					

【効果が下がった事業】							事業費（単位：千円）				効果説明
No	事業名	事業効果を説明する指標	単位	R4	R5	R6	R4	R5	R6		
2	くずう原人まつり支援事業	くずう原人まつり来場者数	人	13,000	16,000	15,000	2,500	2,500	2,500	多少の増減はあるものの、来場者はある程度一定している。	2日間のみの開催であつたため来場者数が減少したが、目標値を達成した。 また、初午祭が事故なく運営できた。
4	初午祭交通安全対策支援事業	初午祭来場者数	人	0	66,310	60,000	0	300	300		
10	佐野新都市線（万葉浪漫バス）運行支援事業	会場内・付近での事故発生件数	件	0	0	0					運行が継続され、中心市街地や新都市への市民等の来訪に寄与した。
		佐野市新都市線利用者数	千人	100	83	71	0	677	1,674		
		1便平均乗車人数	人／便	17	14	12					
11	佐野新都市バス事業連絡協議会支援事業	市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192					運行が継続され、中心市街地や新都市への市民等の来訪に寄与した。
		佐野市新都市線利用者数	千人	100	83	71	100	100	100		
		1便平均乗車人数	人／便	17	14	12					
15	まちなかにぎわい空間維持管理事業	市街地活性化施設及び公共交通年間利用者数	千人	167	182	192					維持管理を適切に行うことによって、市民の憩いの場を提供できた。 防災士に、施設が存在や防災機能を知ってもらうことができた。
		中心市街地歩行者通行量（平日・5日）	人	5,125	5,675	4,858	85	58	58		

（3）基本方針の取組状況

①特に実績をあげている取組（計画初年度（令和4年度）以降の取組状況）	②未着手等計画通りではない取組（及び今後の対応）
・中心市街地の空き店舗の活用を促進します。（不動産関係者に対し空き店舗等活用にぎわい創出補助金の制度を説明してきたことで、活用可能な空き店舗の把握と利用希望者への情報提供につなげることができた。（出件件数 R4:4件、R5:11件、R6:5件）	・株式会社足利銀行佐野支店跡地の活用について、まちなか活性化の拠点としての整備方針を固められていない。（民間からの整備に対する意見を踏まえ整備方針を固める。）

（4）令和6年度行政経営方針の取組状況

・コンパクトシティの推進に向け、まちなか賑わい創出のため中心市街地内の拠点施設を結んだ活性化事業を推進する。 ・中心市街地、地域市街地の空き店舗調査を実施し、空き店舗情報としてマップの作成、空き店舗バンクの構築を検討する。また、引き続き各団体等と連携し不動産所有者の意向確認を行い、活用可能な空き店舗の把握と利用希望者への情報提供に努めることで空き店舗活用を推進する。 ・市道佐野 57 号線の整備にあたっては、令和 10 年度完了に向け駅南公園西土地区画整理事業の建物等の移転・補償、工事を計画的に進める。 ・中心市街地において、そのまちづくり株式会社及び地元商店や地元住民、空き店舗活用事業者など民間活力によるイベント等と連動することで、まちなかの回遊を促進させ賑わいの創出を図る。 ・株式会社足利銀行佐野支店跡地は、さのまちづくり株式会社等の民間活力を活用し整備方針を決定する。 ・地域市街地においては活性化に向け、田沼駅周辺でのイベントを実施し、葛生駅周辺での現地調査を実施する。	・既存のイベントと連携し、佐野駅前交流プラザやまちなか活性化ビル、商工会議所のまちなかサロンを回遊するイベントを開催した。 ・拠点施設である「佐野未来館」1 階にある人間国宝田村耕一陶芸館では、開館 2 0 周年記念事業として、子ども陶芸教室、ギャラリートーク、スタンブラーを実施した。 ・中心市街地、地域市街地の空き店舗調査を実施し、空き店舗情報の把握に努めた。これまで不動産関係者に対し空き店舗等活用にぎわい創出補助金の制度を説明してきたことで、活用可能な空き店舗の把握と利用希望者への情報提供につなげることができた。 ・令和 5 年度から繰越した工事が完成し、市道佐野57号線道路改良事業は終了した（L＝71.7m）。駅南公園西土地区画整理事業は、早期完了を目指し補償交渉を行っている。移転補償 1 棟、使用収益不能補償 4 名、工事状況 道路築造工事 55.9m ・地元商店や地元住民、空き店舗活用事業者など民間活力に協力を求め、まちなかの回遊を促進させるイベントを実施した。 ・株式会社足利銀行佐野支店跡地の活用について、整備方針の決定までには至らないが、さのまちづくり株式会社からの報告書や民間団体からの要望等を受けるとともに、跡地を含めた活性化エリアのあり方を考えるワークショップを開催し、今後の活用方針の参考とする。 ・地域おこし協力隊や宇都宮大学との連携により、田沼駅周辺でのイベントを開催することができた。
---	---

2. 課題と次年度（令和8年度）の取組

（1）課題＜環境変化や関係者の意見、要望等を踏まえて＞	（2）課題に対する今年度（令和7年度）内の取組状況、予定	（3）次年度（令和8年度）の取組（案）
①まちづくりの先導的役割を担うさのまちづくり株式会社と連携した中心市街地での集客とコンパクトなまちづくりに向けた取組の実現 ②中心市街地及び地域市街地における空き店舗の利活用 ③駅南公園西土地区画整理事業の計画的な実施、及び佐野駅南地区のスポンジ化への対応 ④株式会社足利銀行佐野支店跡地の活用方針の決定 ⑤中心市街地活性化拠点施設を活用した賑わい創出事業の促進	①さのまちづくり株式会社と連携し、中心市街地活性化に向けた組織づくりを検討している。 ②不動産関係者に対し空き店舗活用補助金の制度を説明することで、活用可能な空き店舗の把握と利用希望者への情報提供につなぐ。 ③駅南公園西土地区画整理事業は、早期完了を目指し用地補償をおこなっている。 ④株式会社足利銀行佐野支店跡地活用については、整備方針の決定までには至らないが、さのまちづくり株式会社からの報告書や民間団体からの要望等を受けるとともに、跡地を含めた活性化エリアのあり方を考えるワークショップを開催し、今後の活用方針の検討するうえでの参考とする。 ⑤地元商店や地元住民、空き店舗活用事業者など民間活力に協力を求め、まちなかの回遊を促進させるイベントを実施する。	①さのまちづくり株式会社と連携し、中心市街地活性化に向けた組織づくりを行う。 ②空き店舗の活用補助の周知と空き店舗情報の共有を図るとともに、補助対象要件の弾力的運用を検討する。 ③駅南公園西土地区画整理事業の早期完了に向けて、相続問題が解決できない物件について直接施行の手続きを行う。 ④株式会社足利銀行佐野支店跡地を中心に、民間主導によるまちなかエリアの価値を高めるための具体策の意見を取りまとめる。 ⑤既存のイベントと連携し、まちなか活性化ビルや佐野駅前交流プラザ、佐野市まちなかにぎわい空間、並びにまちなかサロンの拠点施設等の有効活用を図るとともに、まちなかに出店した店舗と既存の店舗、そして地元住民等と意見交換できる仕組みを構築する。